

JIS

GCR方式による12.7mm幅, 9トラック, 246 cpmm, 情報交換用磁気テープの情報記録様式

JIS X 6105-1988

(1993 確認)

(1998 確認)

(2004 確認)

昭和63年7月1日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

主 務 大 臣：通商産業大臣 制定：昭和 63. 7. 1

官 報 公 示：昭和 63. 7. 4

原案作成協力者：社団法人 日本電子工業振興協会

審 議 部 会：日本工業標準調査会 情報部会（部会長 高橋 茂）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部電気・情報規格課（〒100 東京都千代田区霞が関 1 丁目 3-1）へ連絡してください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

GCR方式による12.7mm幅、
9トラック、246cpmm、情報交
換用磁気テープの情報記録様式

X 6105-1988

9-Track, 12.7 mm Wide Magnetic Tape for Information Interchange—
Format and Recording, Using Group Coding at 246 cpmm

1. 適用範囲 この規格は、計数形電子計算機及び類似の機械相互間において、情報交換に用いられる磁気テープ（以下、テープという。）の情報記録様式のうち、GCR（Group-Coded Recording）方式を用い、データ密度246 cpmm、トラック数9個のものについて規定する。
2. 用語の意味 この規格で用いる主な用語の意味は、次のとおりとする。
 - (1) GCR方式 テープ上に一連の2進符号を逐次記録する場合、7データバイトごとにECCキャラクタを挿入し、4ビットから5ビットに変換し、更に158個のデータ記録群ごとに制御用の信号を挿入する記録方式。
 - (2) 磁気テープ 計数形電子計算機及び類似の機械において、情報を入力、出力又は記録するための磁気的信号を記録保持するテープ。
 - (3) 標準テープ テープの電磁変換特性の標準として用いられ、その特性値が国際標準化機構（ISO）によって規定されるテープ。
 - (4) 副標準テープ テープの電磁変換特性を標準テープのそれと比較するために用いられ、その特性と標準テープの特性との偏差が明示されて、実測値の偏差を補正することによって、間接的に供試テープと標準テープとの特性との比較を行うことを可能にするようなテープ。
 - (5) 基準磁界 標準テープに記録密度356 ftpmmで相連続する磁束反転を記録して、これを再生するとき、その再生出力電圧が最大出力電圧（飽和値）の95%となるような最小印加磁界。
 - (6) 基準せん（尖）頭出力電圧 標準テープに記録密度356 ftpmm、基準磁界を生じさせる電流の1.3~1.5倍の記録電流によって、相連続する磁束反転を記録し、これを再生するとき得られる平均せん（尖）頭（P-P）出力電圧。
 - (7) 基準縁 テープの磁性面を上側にして水平に置き、記録時のテープの進行方向が左から右方向になるように見たときの奥側の縁。
 - (8) トラック 磁気テープの表面に一連の情報を蓄え、1個のヘッドで読出し又は書込みができる部分。
 - (9) 列 1組の9ビットがテープ幅方向に記録されている部分。
 - (10) 記録密度 トラックの長さ1 mmあたりに記録された磁束反転数（ftpmm）。
 - (11) データ密度 テープの長さ1 mmあたりに記録されたデータキャラクタ数（cpmm）。
 - (12) スキュー 1列内のビットの長手方向の最大位置ずれ量。
 - (13) ECCキャラクタ データ群の中で誤りの検出及び訂正に用いるキャラクタ。
 - (14) 補助CRCキャラクタ ブロックのデータ部分内の誤り検出に用いるキャラクタ。
 - (15) CRCキャラクタ ブロック全体にわたっての誤り検出に用いるキャラクタ。
 - (16) プリアンプル 各記録ブロックの先端を示す信号パターン。主として電子回路の同期に用いる。

引用規格、対応国際規格及び関連規格：17ページに示す。